

# 日本中世の領主一揆

呉座勇一 著

▶ A 5判・400頁／定価：本体 7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1721-2 2014年3月刊行予定

南北朝内乱以降、中世は本格的に「一揆の時代」を迎え、あらゆる階層、あらゆる地域において一揆が結ばれた。そして多種多様な一揆の中でも、最初に時代を牽引したのは年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者であった在地領主による一揆、つまり〈領主の一揆〉であった。したがって国人一揆をはじめとする〈領主の一揆〉は南北朝期以降の地域社会を規定する中心的な要素といえ、これまで多くの研究が積み重ねられてきた。本書はその蓄積の上に、〈領主の一揆〉の構造・機能・結合論理を解明し、新しい国人一揆論を提示しようとする。(本書序章より)

## ● 予定内容目次 ●

### 序章 中世一揆研究の新視角

本書の目的と意義／国人一揆研究の展開／国人一揆研究の課題と本書の視角

### 第1部 〈領主の一揆〉の構造と機能

#### 第1章 伊勢北方一揆の構造と機能

十ヶ所人数と北方一揆／一色氏泊浦発向関係史料の再検討―軍勢催促と出兵―／醍醐寺の撤兵要請とその返答の伝達経路／十ヶ所人数と北方一揆の関係／北方一揆と上部権力の関係

#### 第2章 隅田一族一揆の構造と展開

隅田一族一揆の成立／隅田一族一揆の構造／隅田一族一揆の展開

#### 第3章 松浦一揆研究と社会集団論

一揆成立と契状制定の画期性／松浦一揆の重層性と強制力／松浦一揆の「多分之儀」と「理非」

### 第2部 〈領主の一揆〉と一揆契状

#### 第4章 奉納型一揆契状と交換型一揆契状

一揆契状の二つの様式／充所のない一揆契状／充所のある一揆契状

#### 第5章 親子契約・兄弟契約・一揆契約

親子契約／兄弟契約／一揆契約

#### 第6章 契約状と一揆契状

「一味同心」契約／「一味同心」契約状／領主層の一揆契状

### 第3部 戦国大名・惣国一揆への展開

#### 第7章 領主の一揆と被官・下人・百姓

南北朝期の一揆契状における「下人」「百姓」条項／室町期の領主間協約における「被官」条項／戦国期の「衆中」と「家中」／戦国期の領主間協約における「下人」「百姓」条項

#### 第8章 乙訓郡「惣国」の構造

乙訓郡「惣国」をめぐる研究史／乙訓郡「惣国」結成の経緯／乙訓郡「惣国」結成の主体と論理／「惣国」と「惣国一揆」

#### 終章 南北朝～室町期の戦争と在地領主

蒙古襲来と在地領主結合／南北朝の「公方の戦争」と在地領主の「家」／「危機管理システム」としての〈領主の一揆〉／「室町の平和」と「非常時対応」の解除


#### 索引



ごさ・ゆういち…1980年東京都生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員を経て、現在、東京大学大学院人文社会系研究科研究員。論文に「白河結城文書の一揆契状」(村井章介編『中世東国武家文書の研究』高志書院、2008年)など、著書に『一揆の原理―日本中世の一揆から現代のSNSまで―』(洋泉社、2012年)、『戦争の日本中世史―「下剋上」は本当にあったのか―』(新潮社、2014年)。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本中世の領主一揆	本体7,200円(税別)	ISBN978-4-7842-1721-2	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由(このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

**室町幕府管領施行システムの研究**

亀田俊和著

応仁・文明の大乱以前の室町幕府における根幹の制度であり、將軍の主従制的支配権を強化・促進し、全国の武士・寺社本所に権益を与えることによって政権基盤の強化に大きな貢献を果たしたと評価できる管領施行システムの沿革と意義を分析・解明する。

▶A5判・544頁／本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1675-8

**戦国大名権力構造の研究**

村井良介著

戦国大名権力の動向は、近世に向けた一貫した過程と捉えることができるのか？本書は、主に毛利氏を事例に、戦国大名、「戦国領主」の重層的な権力構造の分析から、戦国期の権力諸関係の特質を、理論的かつ実証的に描くことにより解明する。

▶A5判・452頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1610-9

**※戦国大名武田氏の権力構造**

丸島和洋著

甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討とあわせて、大名権力の中核を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする。

▶A5判・436頁／本体8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1553-9

**中世寺領荘園と動乱期の社会**

熱田公著

思文閣史学叢書

中世畿内における荘園研究の先駆者の一人である著者が遺した主要な業績を4部構成でまとめる。高野寺領荘園支配の確立過程・紀州における惣の形成と展開・室町時代の興福寺領荘園について・中世大和の声聞師に関する一考察など全16篇・付論1篇を収録。

▶A5判・540頁／本体9,000円(税別) ISBN4-7842-1203-5

**※中世・近世の村と地域社会**

西村幸信著

大和を中心とした中世・近世の村落構造についての諸論考を集成。第一には、村落中間層のあり方に注目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。

▶A5判・404頁／本体6,200円(税別) ISBN978-4-7842-1353-5

**荘園公領制の成立と内乱**

工藤敬一著

思文閣史学叢書

九州において鎌倉前期(承久の乱後)に完成する荘園公領制の構造を、その前提にある院政期から鎌倉幕府支配体制の確立へと収束していく在地勢力の内乱、幕府の九州支配の一大特色である小地頭制という政治的社会的あり方とともに究明する。

▶A5判・440頁／本体8,800円(税別) ISBN4-7842-0750-3

**※戦国期関東公方の研究**

阿部能久著

思文閣史学叢書

関東府の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鏝阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

▶A5判・320頁／本体5,700円(税別) ISBN4-7842-1285-X

**日本中世の社会と寺社**

細川涼一著

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民など、歴史の主流からこぼれ落ちがちなものたちへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。

▶A5判・452頁／本体7,700円(税別) ISBN978-4-7842-1670-3

**戦国大名佐々木六角氏の基礎研究**

村井祐樹著

これまで、戦国期畿内の政局における重要性は広く知られながら実証的な研究が不十分であった戦国大名佐々木六角氏について、可能な限り一次史料を用い、六角氏や家臣の動向、実態などを明らかにする。また、応仁元年(1467)～元和6年(1620)の、六角氏及び家臣の名が見える記録類を全て網羅した230頁におよぶ史料集の稿本を付す。

▶A5判・530頁／本体11,600円(税別) ISBN978-4-7842-1663-5

**※東国における武士勢力の成立と展開**

東国武士論の再構築

山本隆志著 思文閣史学叢書

本書では、東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と連動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。

▶A5判・384頁／本体6,500円(税別) ISBN978-4-7842-1601-7

**※戦国期権力佐竹氏の研究**

佐々木倫朗著

室町期から戦国期にかけ、佐竹氏がどのような過程をへて権力形成を行ったのか、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりやその地域編成について、佐竹氏が発給した「知行充行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を通じて考察することで、従来捨棄されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。

▶A5判・304頁／本体5,800円(税別) ISBN978-4-7842-1569-0

**室町期東国社会と寺社造営**

小森正明著

思文閣史学叢書

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動―寺社領経済―の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

▶A5判・356頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1421-1

**日本中世の地域と社会**

三浦圭一著

地域史・技術史・流通史に先駆的な業績を残した著者が「地域史をどう書くか」ということではなくて地域社会の中から歴史をどう描くかを課題として、中世後期の地域社会における民衆生活の全体像を、支配関係・村落共同体・差別構造・技術・信仰などから重層的に明かそうとした珠玉の論集。

▶A5判・496頁／本体8,800円(税別) ISBN4-7842-0755-4

**※中世後期の寺社と経済**

鍛代敏雄著

思文閣史学叢書

中世寺社勢力が後退し、戦国期宗教が台頭する時期の石清水八幡宮と本願寺教団を主な対象とし、両者の比較も行いつつ、従来、寺領・社領を中心に論じられてきた寺社と経済をめぐる問題に商業史・交通史・都市史の視角から迫り、中世後期の社会経済の変革の実態を具体的に描き出す。

▶A5判・404頁／本体8,000円(税別) ISBN4-7842-1020-2

**※瀬戸内海地域社会と織田権力**

橋詰茂著

思文閣史学叢書

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。【内容】瀬戸内海における塩の生産／瀬戸内海水運と内海産業／地域の社会階層／四国真宗教団の成立と発展／在地権力の港津支配／香川氏の発展と国人の動向／海賊衆の存在と転換 他

▶A5判・396頁／本体7,200円(税別) ISBN978-4-7842-1333-7

**周縁文化と身分制**

脇田晴子・マーチン・コルカット・平雅行編

かつて克服の対象としか見なされなかった前近代社会を、近代化の呪縛を脱した地平から見直し、周縁部分をテーマとすることによって、新たな前近代社会像を多面的に浮き彫りにする12篇。

【内容】集団帰属性と衣服／鎌倉武士階級におけるジェンダー形成／山城国一揆再考／近世社会における私的暴力と公的美徳 他

▶A5判・350頁／本体5,500円(税別) ISBN4-7842-1231-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。